



涌谷町かがやく創業まちづくり研究所 涌谷まち・ひとデザインラボ 事業報告

事業活動の経過 会議・ワークショップ活動

<小目次>	2-1. 事業活動の経過	12
	年間活動経過 (2016.5-2017.3)	13
	2-2. 会議・ワークショップ活動 (農業ワークを除く)	
	2-2-1 平成27年度事業のチェック プレぐつつ会議	15
	2-2-2 オリエンテーション キックオフ会議	17
	2-2-3 ぐつつアップ意見交換会	23
	2-2-4 ぐつつワーク+方向まとめ	24
	2-2-5 商品開発ミーティング	25
	2-2-6 開発商品の試食会	26
	2-2-7 石仏広場の活用研究	28
	2-2-8 わくやツアー下見会	30
	2-2-9 商品開発ハンズオン	32
	2-2-10 ことこと家ミーティング	33
	2-2-11 ツアー結果研究会	34
	2-2-12 起業ハンズオン	41
	2-2-13 宮城大学伝統食講義・実習への参加	43
	2-2-14 起業ミニレクチャー	44
	2-2-15 宮城大学学内発表参加	46
	2-2-16 商品化ハンズオン(弘美さんちのきんぴか漬け物語)	47
	2-2-17 岩出山・ブルーファーム研修	48

2■1.

事業活動の経過

事業のスタートは5月下旬から。涌谷町役場企画財政課、農林業振興課を主管課として、受託業者(株)ユーメディアのスタッフ、ファシリテーターの氏家滉一氏、涌谷まち・ひとデザインラボの継続メンバー30名と、新たに農業活動に取り組む農家8名が参加して、以下のような多様な活動が実施されました。

<活動概況>

平成28年度事業では、以下の活動が実施されました。実施時期は右表の通りです。

これらの活動の実施により、「涌谷まち・ひとデザインラボ」事業は、確実に町内に浸透し、評価を高めてきています。

- ・会議(ミーティング)やワークショップ…合計18回開催
- ・一般町民や不定期参加のメンバーを対象とした公開講座…8回開催
- ・新規野菜の導入に向けた、農家向けワーク…4回開催
- ・宮城大学食産業学部との協働ワーク…4回開催
- ・町内外でのイベント実施(外部としての参加を含む)…7回開催

累計で計41回の活動が行われ、参加人員は延べ700名となりました。

<宮城大学との協働>

農業活動に専門的知見を取り入れるために、参加した宮城大学食産業学部の有志教員により、大学の正規単位取得ができる「食品マーケティング演習」、これは本事業の農業活動の成果ともなる、新たな野菜を取り入れた食のビジネス提案のための講義が開講され、教員・学生たちがまちを訪れて、交流を深め、試験導入された野菜を使ったメニュー開発に取り組むなど、新たな“協働体制”が生まれました。

単年度では、農業活動への正しい評価は難しいと考えられますが、町と宮城大学とのつながりの中からも、今後への新たな活動の展開が予想されています。

<メンバーの自主活動>

また、メンバーの自主的活動として、商品のブラッシュアップ活動が継続的に行われたほか、平成29年3月時点で、以下のような活動や成果が進んでいます。

- ・わくやスイーツの商品化、販売開始。(町内事業者との新しい連携)
- ・まちづくり活動の立上げ。(わくや塾・羊毛体験工房やワークショップの開催)
- ・地域商社、株式会社ディゴルドを設立。
(今後の事業実施に向けた動きが始まっている)

2-2 会議・ワークショップ活動 1

平成27年度事業のチェック【プレぐつぐつ会議】

活動名	プレぐつぐつ会議(前年度の振り返り会議)																		
主催者	涌谷町企画財政課・(株)ユーメディア																		
活動日時	平成28年 5月28日(土) 午後1時～午後3時																		
活動場所	涌谷町役場西庁舎1階会議室																		
参加者	メンバー:昨年度参加者から有志14名が参加 担当課:企画財政課(今野・木村・金野)、 事務局:ファシリテーター氏家滉一、(株)ユーメディア(武田・佐藤・林)																		
目的・内容	平成28年度事業スタートに当たり、継続メンバーから昨年度事業の反省点や、今年度事業への期待などをヒアリングし、事業の方向性を導き出すための事前の意見交換を行った。																		
議事進行と協議事項	<p>平成27年度事業の「涌谷まち・ひとデザインラボ」メンバーに改めて集合していただき、前年度事業の反省（チェック）と今年度取り組みたい事業についてヒアリングを行った。</p> <p>まず、下のような、「気づき発見シート」を配布、記載してもらい、参加メンバー各自がまちづくり事業を通じて発見したこと、磨いてきたこと、発信したこと、それぞれを振り返り、今年度事業への展望や、やりたいことについて語り合い、板書しながら協議する形とした。</p> <p>また、見落としや新たな考えについても盛り込むため、協議終了後は、用紙を持ち帰り、後日事務局に提出することとして、前年度事業に対する総合的なチェックを行った。</p> <div data-bbox="742 1182 1444 2078" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">2016涌谷まち・ひとデザインラボ 今年のポイントを見つけるための気づき発見シート</p> <p style="text-align: center;">みんなの気づき発見シート? : 意見交換 観光 食 農業 その他</p> <p style="text-align: center;">お名前: _____</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">涌谷の良さで発見したこと</th> <th style="width: 33%;">涌谷で磨くと伸びると思う点</th> <th style="width: 33%;">涌谷で発信したい点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">今年のまち・ひとデザインラボに関する質問</p> <p>1 _____</p> <p>2 _____</p> <p>3 _____</p> <p>4 _____</p> <p>5 _____</p> <p style="text-align: center;">今年のまち・ひとデザインラボに関して期待していること</p> <p>_____</p> </div> <p>参加メンバーに「気づき発見シート」(右)が配布され、発言と意見に基づいて、28年度の方針性が協議された。</p>	涌谷の良さで 発見 したこと	涌谷で 磨く と伸びると思う点	涌谷で 発信 したい点	1	1	1	2	2	2	3	3	3	4	4	4	5	5	5
涌谷の良さで 発見 したこと	涌谷で 磨く と伸びると思う点	涌谷で 発信 したい点																	
1	1	1																	
2	2	2																	
3	3	3																	
4	4	4																	
5	5	5																	

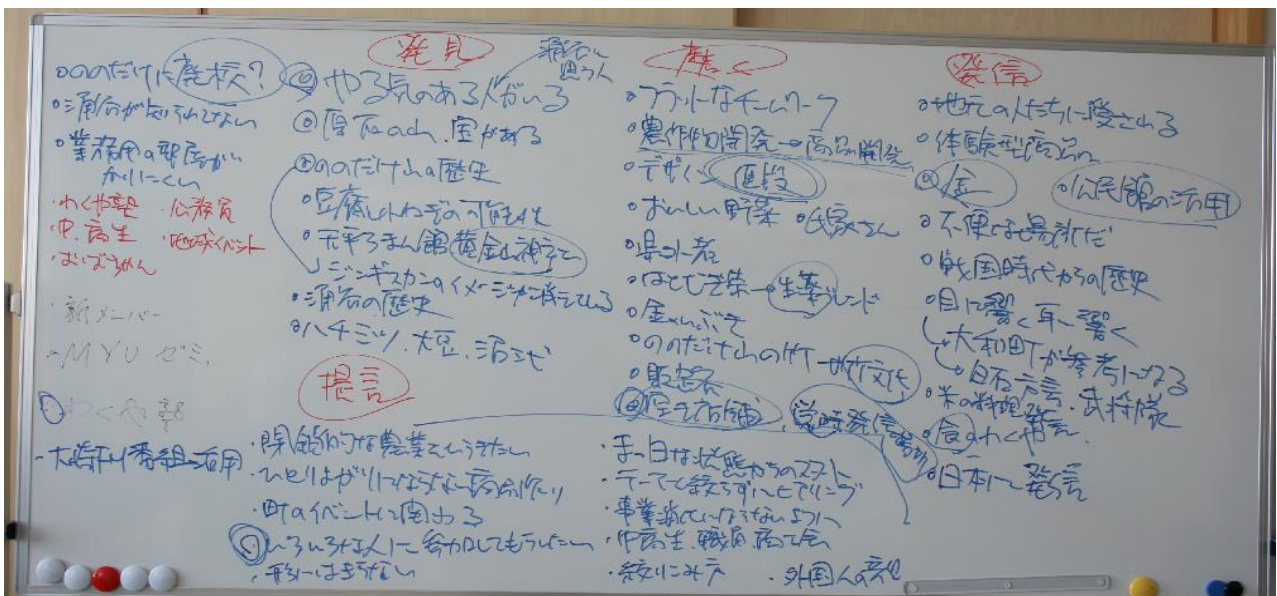
会議の様子



昨年度メンバーが集まり、3か月間の事業を振り返り、今年度の方向性を和やかな雰囲気の中で検討し合った。




28年度事業の方向性についての発言がホワイトボードにまとめられた。



2-2 会議・ワークショップ活動 2

【オリエンテーション・キックオフ会議】

活動名	平成28年度 キックオフ会議
主催者	涌谷町企画財政課・農林振興課・(株)ユーメディア
活動日時	平成28年 6月21日(土) 午後2時～午後5時30分
活動場所	涌谷公民館 交流ホール
参加者	メンバー:新規参加の農業関係者14名、昨年度ラボメンバー28名が参加 大橋信夫涌谷町長、担当課:企画財政課(今野・木村・金野)、農林振興課(遠藤、三浦、千葉) 進行:ファシリテータ氏家滉一、川島滋和・谷口葉子(宮城大学)、事務局:(株)ユーメディア(武田・佐藤・林)
目的・内容	平成28年度事業のスタートに当たり、前年参加のラボメンバーに、農業分野の新メンバーを加え、事業の全体、目標や実施項目を検討し、新メンバー全員の合意形成を図った。
議事進行と協議事項	<p>全体を2部構成とし、第一部は大橋信夫町長の挨拶を受け、全体会議とした。 第2部は、農業分野と、商品開発、資源開発の専門部会に分かれ、それぞれ事業の目的理解と実施項目を確認しながら、意見を交わした。</p> <p><第1部></p> <p>まず事務局の(株)ユーメディア・ディレクターの武田篤彦から、採択された企画書を基に、涌谷まち・ひとデザインラボ活動の昨年度の活動実績の紹介と、振り返り、今年度の目標と実施の方向性について説明を行った。</p> <p>続いてファシリテーターの氏家滉一氏から、基調講演として最近の全国におけるブランド化の活動事例、地域づくり事業の傾向などが紹介された。さらに、プレぐつぐつ会議でも配布された、「気づき発見シート」が新たなメンバーに配られ、新メンバーの意向がヒアリングされた。</p> <p>また、宮城大学の川島・谷口両先生が紹介され、宮城大学食産業学部との“協働”により、農業を新たな柱とする事業活動の方向性が示された。</p> <p><第2部></p> <p>休憩後に行われた専門部会は、農業グループが会議室に移動して、涌谷農業の現況確認や、涌谷町が抱える農業の課題、専業農家として所得向上への方策をどのようにとらえているかなどについて、宮城大学食産業学部の川島准教授を司会役として、各参加農業関係者が、実状と考えを発表した。</p> <p>また、商品開発、資源発掘グループは、それぞれのテーブルで「島」を作り、カードを使って新たな商品開発への方策、観光事業などの展開に向けたアイデアを出し合う「ブレインストーミング」が行われた。</p>  <p>開会に当り、メンバーの活躍と活動の成果への期待を述べる、大橋信夫涌谷町長。</p>

第一部・全体会議の様子



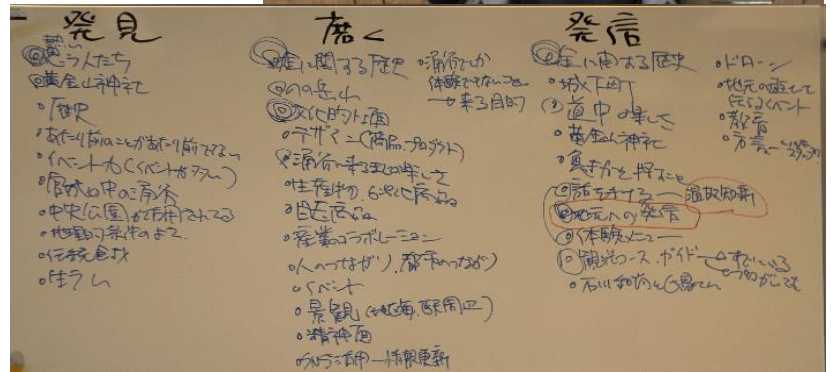
新メンバーが顔をそろえたキックオフ会議。左下は、企画説明をするユーメディア武田と、事業のポイントを説明するファシリテーター氏家滉一氏。



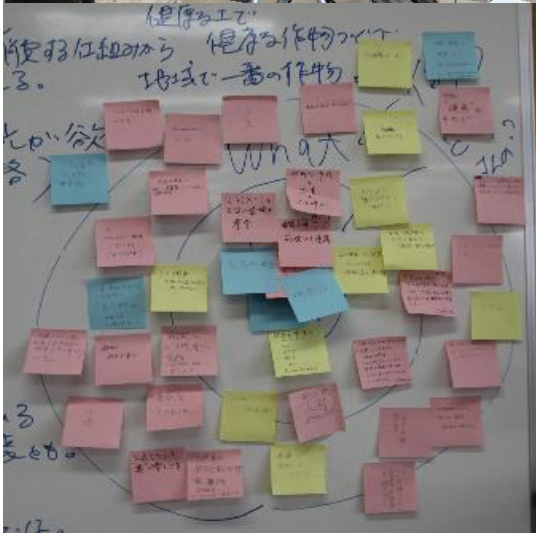
農業部会の司会役・川島滋和宮城大学准教授(左下)と、資源発掘・商品開発グループに加わった谷川葉子助教。



資源発掘・商品開発グループの発言がまとめられたホワイトボード。



農業グループでの話し合いと、発言がまとめられたホワイトボード(左上、左)。新たに参加したのは、専業農家8名、農業委員会やJA関係者、役場農林振興課のみなさん。川島准教授は農業経済の面から、多様な問題点を指摘した。



農業グループのキックオフ会議のポイント

<出席者> (敬称略)

(ファシリテーター)

宮城大学食産業学部 川島滋和准教授

(町民参加者)

畑岡茂(岸ヶ森生産組合)

小谷道夫(小里、水田)

大友利明(小里、水稲、和牛繁殖)

渡部正敏(桜町、水稲、後継者問題)

佐々木みさ子(上町、野菜多品種、直売所出荷、漬物など加工品)

齋藤常浩(小塚、酪農、水田)

安住裕一(地区生産組合長)

氏家治(桜町、小ねぎ、水菜、不耕起農法)

館田忍(JAみどりの)

(役場参加者)

遠藤栄夫(農林振興課課長、水稲)

三浦靖幸(農林振興課課長補佐)

千葉悠弥(農林振興課主事)

大平裕人(農林振興課)

大友真人(農林振興課)

石井真佐子(農林振興課)

上野し乃(農業委員会担当)

(進行補助)

武田篤彦((株)ユーメディア)

(川島先生のコメント)

- ・最初に、どのような農業をやってきたか、どのような問題を抱えているかをふくめ自己紹介を行った。
- ・議論の進め方として、私としてはどのような品目をやっていくかに焦点をあてている。
- ・(ボードを示し)、三つの輪があり、外から What(品目)・How(生産・出荷)・Why(なぜそれを涌谷でやるのか) について考えてもらった。
- ・しかし土壌や地形、季節などの条件を考えるとすぐには決められない。
- ・ディスカッションの中で、外からではなく、中から考えた方がよいのではないかと感じた。

<発言に現れた関心事の傾向>

- ・後継者問題
- ・圃場整備が先決(大友)
- ・1種類の作物にはこだわらず、「失敗したら次」という心構えが必要(畑岡)
- ・コメ以外の作物を模索(畑岡)
- ・「何か面白いものを作ってみよう!」と立ち上がるリタイア組が現れないか(畑岡)
- ・葉物が有望。涌谷の冬は寒いが、簡易ハウスでも対応できるはず(小谷)
- ・耕作放棄地を見直して、ナンバン(トウガラシ)を試している(渡部)
- ・多品種の野菜を家族経営でやっていける範囲で耕作している。息子世代に参加してもらうほどの規模は無いが(佐々木)
- ・循環型農業を目指して酪農に取り組んでいる。堆肥は町内の他の生産者(氏家会長)にも出荷している(齋藤)
- ・園芸作物に力を入れてはどうか。それぞれの圃場条件の違いに応じて(JA館田)
- ・気候変動(温暖化)によって各作物の生産適地が北上している。作付計画の検討要素だ(安住)
- ・農閑期の2、3月と8、9月を埋める作物が欲しい(安住)
- ・「見せる農業」に興味がある。中山間地に農地を持っているが、観光客を馬車で連れて行って農業体験をしてもらうなど。(安住)
- ・「健康」は大事だ。糖尿病の人でも安心して食べられる機能性米など、有望(氏家)
- ・加工品を作ったときは、まず地域内で消費してもらうことを心掛けたい(氏家)
- ・耕作放棄地や転作予定となっている水田の中には、少し調整すれば利用性の高まる圃場があるはずだ(氏家)
- ・健康な土を作るために、「耕畜連携」に目を向けたい(氏家)

<ポストイットに書き出されたキーワード>

【作物】

- ・薬用作物
- ・ラベンダーの作付
- ・落花生
- ・サツマイモ
- ・ブロッコリーに挑戦中（7月に出荷予定）
- ・レンコン。花が咲き、生薬にもなる。圃場条件に合えば・・・
- ・ローコストで転換できる作物
- ・特殊な作物を少量ずつ。人を呼ぶため
- ・大豆
- ・いろいろな品種の大豆
- ・大豆の加工品、ソイミートなど
- ・涌谷の冬の寒さを利用して凍み豆腐。ハーブ入り
- ・質の良い大豆の増産も必要
- ・大豆の裏作でできる作物も

【加工品】

- ・特徴や特性を備えた農産物を加工して商品化
- ・餅、あられ菓子
- ・味噌
- ・「健康に良い金のゴマ麦茶」、産金地の知名度を活かす、

【健康】

- ・健康に良い食べ物
- ・病人に使える各種農産物（どんなものがあるか、専門家のアドバイスが欲しい）
- ・アトピー、高血圧、糖尿その他に有効で、しかも美味しい
- ・子どものアレルギーに対応したもの
- ・病院と連携
- ・健康に配慮した野菜作り（漢方、ハトムギ、ホウレンソウ・・・）、しかも通年で収穫が見込めるもの、加工しやすい、通販も視野
- ・機能性野菜・コメ
- ・低糖質のコメ
- ・ダイエットに効果的な作物（野菜？）
- ・「すべての野菜は体に良い」
- ・健康と環境をキーワードに
- ・健康志向でブランディング

【農地】

- ・減農薬
- ・資源循環型
- ・土の健康と人の健康
- ・ミネラルバランス
- ・硝酸態チッソ含有量
- ・畑作振興に欠かせない堆肥を供給する、公的なネットワークがあればよい

【場所】

- ・子どもたちが何回も来たがる所
- ・親、祖父母を巻き込む
- ・子どもたちにも“農”の楽しさを
- ・食育（子どもに体験させる）
- ・景観を守る農業（消費者にも理解してもらう）
- ・涌谷町に1カ所、集まれる場所を
- ・大手デパートと共同で農場を運営

【人】

- ・定住
- ・頭の良い、若い人材が欲しい
- ・退職された人材の特技を利用できる環境を作るところから
- ・雇用の創出
- ・地域の人たちの力を借りて働く場を提供
- ・コメ以外の作物を導入することによって、通年の仕事を創出すれば若者が定着

===== <全体発表>

（川島先生のコメント要旨）

どのような品目をやっていくかを見つけるために議論を行った。
そのために、What(品目)・How(生産・出荷)・Why(なぜそれを涌谷でやるのか)という3つの同心円を設定して、一番外側の「そんな品目を作るか？」から話し合ってもらおうと考えた、しかし実際にディスカッションを始めてみると、土壌や地形、季節、各戸の経営形態などの諸条件は千差万別で、何か一つに収斂していくことは難しいということが見えてきた。
ディスカッションではむしろ、HowやWhyに当たる、内側の円についての検討が主だった。具体的な品目には至らなかったが、共通認識が明らかになり、方向性は見えてきた。

（農業グループ：齋藤常浩さんのまとめ発表から）

- ・私自身は酪農と水稻をやっている。
- ・現在の農業には閉塞感がある。そのカベをぶち破るにはどうしたらいいかを考えたい。
- ・涌谷独自の、儲かる農業をするためにはどうすればいいかを考え、実践したい。
- ・ここで適切な品目などを「教えてもらえる」と思って参加したが、「考える」ことから始まったので驚いた。
- ・ディスカッションでは、つくりたい作物として、健康であったり、機能性をもった作物に取り組みたいという方向、目的が出てきている。
- ・そのために、土づくり、土の健康を考えた上での、資源循環型農業に取り組みたいという意見が出ている。
- ・「健康によい」とは具体的にどのようなものかということ、例えば低糖質米であったり、低カリウム野菜、ダイエットにいいもの、アレルギー対策になるような野菜をつくるのが良いのではないかとの意見が出た。

・一つの品目にはまとめられないが、涌谷で作られている大豆、温暖化を踏まえて落花生もいいのではないかと、サツマイモを作るのが良いのではないかと意見も出ている。

・農作物づくりだけでなく、人へのかかわりとして、泥んこになるような体験を含む子どもへの食育、高齢者のいきがいにもつながるような活動、雇用創出にもつながるような農業にしたいという方向になっている。

・涌谷の町づくり目標でもある、「健康かがやくまちづくり」に寄与できる形で取り組めればよいのではないかと——という方向でまとまった。

<今後の進め方について>

- ・本日の話の内容を整理して、参加者・関係者にフィードバックする。
 - ・参加者から、その後思いついたアイデアや質問や要望があれば受け付ける。
 - ・参加者の営農形態にマッチした先生を選び、圃場や地区の様子を実際にご覧いただく。
(日程は個別に調整)
 - ・現場に適した作物の候補をご紹介いただき、試験栽培。
 - ・同一品目を複数生産者(地区)で試験栽培する場合は、経過・成果について情報交換する。
 - ・有望な候補作物が見出されたら、次の作付に向けて生産計画を練る。
- ・作物の選定に当たっては、商品開発チームや地域資源チームとも意見交換等の場を持ちたい。